

とくべつしせきいちじょうだにあさくらしいせき

12. 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市城戸ノ内町字上城戸

調査原因：調査整備事業（第139次発掘調査）

調査期間：平成24年6月11日

～平成24年8月10日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：660 m²

時代：室町時代



位置図 (S=1/10,000)

調査の概要 一乗谷朝倉氏遺跡第139次発掘調査は、一級河川一乗谷川の河川改修工事に伴う緊急発掘調査です。遺構の残存状況を把握し、工事による埋蔵文化財への影響を回避するための事前調査として実施しました。

発掘調査地は、朝倉館跡から約500m南に位置する上城戸跡周辺であり、上城戸跡の外濠から下流に、一乗谷川に沿って約110m、幅約6mの細長い範囲を調査しました。

発掘調査の結果、上城戸跡の外濠のほか、城戸の内側では砂利敷きの道路跡、階段跡、そして建物の礎石等を確認することができました。以下に主な遺構等の概要を説明します。

外濠跡 延長105m、幅16mの規模をもつ上城戸跡の外側に構築された濠で、これまでの調査により、濠幅は12mと推定されています。濠の深さは、旧耕作面から約3.5mです。今回、一乗谷川と濠とを区画する石垣を確認しました。濠からは仏像（あるいは神像）や漆器、下駄などの多量の木製品や陶磁器等が出土しました。

道路跡 2本の道路跡を確認しました。1本は上城戸跡から下流に延びる幅約2.75m、残存長約21mの砂利敷きの南北道路跡です。残存状況の良い箇所から、こぶし大の礫の隙間に砂利を敷き詰めた道路であったと推定できますが、細かな砂利は後世の河川の氾濫によって流失したと考えられます。また、道路の一乗谷川沿いには土塁が、屋敷側には掘立柱による塀のような施設が存在したと考えられます。構築時期は室町時代以降と考えられます。

また、一乗谷川から山際に延びる幅2.90m、確認できた長さ約7.5mの道路跡には明確な砂利敷きはありません。

階段跡 南北方向に延びる砂利敷きの道路跡よりも古い層（下層）から旧一乗谷川に降りるための階段跡が良好に発見できました。階段跡の幅は約1.80mで、踏み段は3段です。

礎石跡 建物跡の礎石と考えられる石が確認できましたが、建物の規模等は今回の調査では明確に分かりませんでした。

まとめ 今回の発掘調査成果のなかでも、砂利敷き道路跡の下層から確認できた階段跡は、一乗谷川に降りるための階段遺構として、戦国城下町を貫く河川際の構造や利用の様子を知る上で貴重な調査成果といえます。

(川越光洋)

%Á\ A b!í 4(2°2§>& V™4G S>' \ W™4G S b7u•2§>& í | ~>'

V Ů ^ 2§ b ¥ p ? } u K S9x I 11.9cm
q ± œ 4.2cm b M Œ n I b Œ0 Ö @& 6 • 8 c
&, @>' [6 • ĩ4Š _ c5% @ H I W S" g Â [g
Ň K Z > ~ Ž Ů'¼ _ # < } ∈ Z 8 S G \ @ N
[A •
M Œ1Â [c Ů ô 60 ° > & 1985 ° >' _ ‹ K S
" 52 \$ĭ @1* > & ' 8 Ÿ N ... >' [v9x I
11.0cm b Œ0 &, @> & 6 • 8 c Ö @>' @ u K
Z 8 •

Œ Ö @> & 6 • 8 c &, @>'